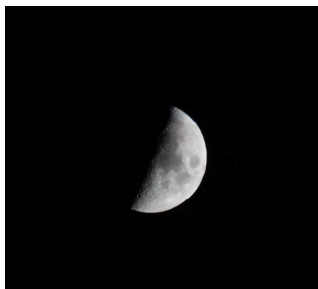


江北の四季

令和2年

10月24日

第30号



10月23日19時00分



10月19日19時09分



10月21日17時19分



10月18日18時10分

○十月は満月の夜が二回ある珍しい月です。中秋の名月は十月一日でしたが、十月三十一日も満月となります。ひと月に二回ある満月をブルームーンと呼ぶそうです。ちなみに三十一日の満月は今年最も小さく見える月で、四月八日のスーパームーンと較べると直径で約十四パーセント小さく、見た目の面積で較べると七十四パーセント(0.86×0.86=0.74)になります。

そして、満月の二日前の十月二十九日が中秋の名月の次に美しいと言われる十三夜です。十五夜を見たなら、後の十三夜の月もぜひ見たいものです。二つ合わせて「二夜の月」と呼び、どちらか一方の月しか見ないのは「片見月」と言うようです。

おそらく十五夜の頃は台風や秋雨の時期で天気が悪い日が多く、お月見できない年が多いに較べ、十三夜の頃になると、秋晴れが多く美しい月が見られることから来たのだと思います。「十三夜に曇りなし」と言います。

十三夜は粟や豆の収穫の時期なので「粟名月」や「豆名月」とも言って、一般には粟や大豆などを供えるようですが、我が家では畑の大豆は若い内に枝豆としてビールのつまみに食べてしまいましたので、この日も芋名月となります。

日々の忙しさに追われる現代ですが、今年はコロナのお陰で例年のようにあくせくする

こともなくなりました。ときには月を見上げて心安まる時間を過ごすのもいいではありませんか。

○蛇足

お月様は旧暦で数えますが、十月二十五日は旧暦の九月九日、つまり旧の「菊の節句、重陽(ちようよう)の節句」です。今年はこちら「最も強い馬が勝つ」と言われる菊花賞の日です。はたして一番人気のコントレイル(飛行機雲、ユーミンですね)は優勝するのでしょうか。



サラシナショウマ

☆サラシナショウマ(晒菜升麻)。多年草の山野草。夏から秋にかけて、白い小花を穂のよう^{さくら}に咲かせます。この名前は、若芽を茹でて水に晒し、山菜として食したことに由来します。今年の夏、ハケ岳山野草園で衝動買いしてしまいました。これもまた絶えるかも。



アッブルセージの赤色が鮮やか

○第五十二候、霜降(そうこう)、初候、霜始降(しもはじめてふる)。朝晩の冷え込みがさらに増し、朝霜が見られる頃。

大気中の水蒸気は、白露から寒露となり、とうとう霜降となつて、秋は最終楽章に入りました。霜は大気中の水蒸気が地面や草木に白く結晶してできます。よく晴れた日の翌朝、放射冷却で気温がぐっと下がると霜が降りやすくなります。霜が降りるといよいよ冬が近

づいて来ます。そろそろ防寒具や暖房器具の準備などの冬支度をする必要があるようです。
 幾星霜(いくせいそう)という言葉がありますが、人は辺り一面を真っ白に覆う霜を見ると、一年の終わりを感じ時の流れを実感するのでしょうか。



コキア

☆コキア

別名はホウキギ(帚木)、ホウキソウ(帚草)。数年前、箱館山で見たコキアの群生に感動し、一度畑に植えてからは、毎年こぼれ種で咲かせてくれます。春蒔き一年草で、最初は緑色ですが秋になると鮮やかな赤色に変化します。何をしなくても丸い形のまま大きくなり手間いらずです。ホウキギの和名のとおり、刈り取って陰干しすると草ぼうきになります。



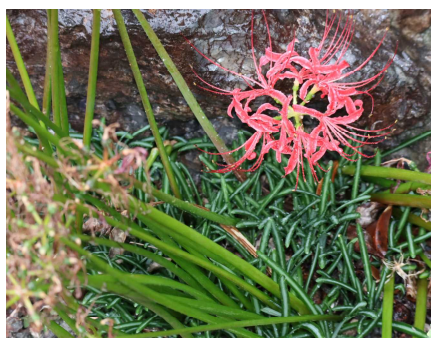
山芋(ムカゴ)

☆畑の山芋の葉がだいぶ黄ばんできました。二十本ほど植えています。長き五〜六十cmになるので、掘採るのが大変です。もうしばらくしたら、美味しいとろろ汁を思い浮かべながら作業することになります。



ハマギク

☆ハマギク。キク科ハマギク属の常緑多年草です。秋になると、直径6cm前後の白い花が咲き、初冬まで咲き続けます。耐寒性、耐暑性が強く丈夫で放任しておいても大丈夫です。



☆彼岸花が一輪残っていました。根元から葉が出てきています。多くの草花が弱っていく中で葉を伸ばし、光合成をして球根を太らせます。

